

第21回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	地域にひらかれた老健作り ～オレンジカフェの取り組みを通して～		
副 題	今度はいつやるで。また来るね！！		
フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ	フルリールムカワ	
施 設 名	介護老人保健施設 フルリールむかわ		
フリガナ	サギョウリョウホウシ	ワダ	クミ
発表者(職名・氏名)	作業療法士 和田 久美		
フリガナ	マスダヒロミ	アリサカヒナコ	オザワユカリ
共同研究者	増田裕美	有坂日向子	小澤ゆかり

【はじめに】

当施設では、新オレンジプランの7つの柱のひとつ「認知症の人の介護者への支援」の主な政策である『認知症カフェ』を平成29年4月より運営している。1年以上が経過し当カフェでの取り組みの成果および今後の課題を活動内容と併せて報告する。

【目的】

市内の認知症カフェとの差別化を図り、専門職が相談窓口となり情報交換や集いの場としての役割を果たすために地域に溶け込もう。

【対象者】 地域住民

【活動内容】

開催日時：毎月第4火曜日 14：00～16：00
 スタッフ：作業療法士・言語聴覚士・介護支援専門員・管理栄養士・リハアシスタントボランティアスタッフ
 当日までの流れ：第3火曜日前ミーティング
 第4火曜日オレンジカフェ当日
 開始10分前にボランティアスタッフとの打ち合わせ
 16：00～反省会

【活動報告】

<平成29年度>当施設職員に講師を依頼。1時間程度で講義を行ってもらった。具体的な内容については「転倒予防」「排便について」「口腔・歯科衛生」など多種多様であった。

<平成30年度>昨年度末に参加者およびボランティアスタッフにアンケートを実施。アンケートには「折り紙・歌唱をしたい」との意見が多数あったため、今年度は〇〇教室と題して、リハビリの要素を取り入れた教室を開催している。

【結果および成果】

平成29年度から現在までの活動を振り返ると4～5名の固定参加者とボランティアスタッフが常時3～5名程度参加しており、参加者全員がオレンジカフェ

を心待ちにしている。

月々の活動内容についてもスタッフの専門分野を生かした内容にしているため、参加者からは「楽しかった」「勉強になった」とのご意見を多数頂いている。また、15：00に提供する「おやつ」についても管理栄養士のアイデアで『旬な食材を使った低予算でも見た目は豪華なもの』を提供しているため、見た目・味ともに好評である。ボランティアスタッフの間では「このカフェは勉強になる。」や「希望者が多いので参加を絞り込むのが大変。」のご意見を頂いている。

そのような努力の結果、北杜市包括から、新たな参加者の依頼や活動内容の提案を頂けるまでになり、さらには介護支援ボランティア事業指定事業所への登録依頼もあった。

【考察・まとめ】

これまでの活動を通して固定参加者の獲得や北杜市包括への周知が出来た一方で、いくつかの課題も見えてきた。その一つに「認知症カフェ」の本来の機能である家族支援が行えていないことが挙げられる。運営スタッフが当施設の常勤者ということもあり、平日の開催になってしまうために家族の参加が難しいことや地域への宣伝が不十分であるために近所の高齢者が中心となっている事が要因と考える。また認知症を疑う参加者がいても北杜市包括と密な連携が行えていないことから、ご家族に相談も出来ず1ヶ月に1回様子観察をしているだけになっている。もう一つとして「送迎が行えない」ことが挙げられる。現在は、デイケア職員の協力があり条件付きで送迎をお願いしているため、送迎ルート外の参加者はおらず、限られた地域住民のみが対象となっているのでルート外で「認知症の不安や困っているひと」への支援が行えていない。

現在、参加者には満足して頂いているが、地域住民への宣伝が不十分であるために「オレンジカフェ」が周知されていないことで専門職の専門性を幅広く生かし切れていないことや運営スタッフの情報や知識不足、送迎が今後の課題として見えてきた。